

ふれあい通学合宿



1. 事業の概要

○ 事業の趣旨

子供たちが家族から離れ、他校の子供と共同で生活し日常的な生活体験を自分たちの力で行うことを通して、子供たちの社会性・自主性などの「生きていく力」の育成を目指す。

○ 実施期間

令和2年2月24日（月）～令和2年2月28日（金）4泊5日（新型コロナウイルスのため期間短縮）

○ 対象者・参加者数（人数／定員）

室戸市内の小学校5・6年生 31名／50名

○ 活動プログラム

		2/24（月）	2/25（火）	2/26（水）	2/27（木）	2/28（金）
朝	6:00 6:50 7:15 7:30 9:00 10:00 11:00		起床・洗面 朝食 登校	起床・洗面 朝食 登校	起床・洗面 朝食 登校	起床・洗面 朝食 登校
昼	13:00 15:00 16:00 16:30	各小学校出発 自然の家着 開講式 オリエンテーション アイスブレイキング	学校 各小学校出発 自然の家着	学校 各小学校出発 自然の家着	学校 各小学校出発 自然の家着	
夕	17:00 17:15 18:30 19:30 20:00 21:30	夕べのつどい 夕食 学習・読書 班会など 入浴 就寝	夕べのつどい 夕食 学習・読書 活動 入浴 1日の振り返り 就寝	夕べのつどい 夕食 学習・読書 活動 入浴 1日の振り返り 就寝	夕べのつどい 夕食 学習・読書 活動 入浴 1日の振り返り 就寝	

2. 活動の様子

<2月24日（月）>

室戸市内5つの小学校の5・6年生31名の子供たちが参加してふれあい通学合宿がスタートした。午後3時に自然の家のバスで羽根方面・佐喜浜方面へ参加者を迎えに行ったが、ふれあい通学合宿への期待を抱いてバスに乗車してきた。自然の家に到着後、第3研修室でオリエンテーションを行い、ふれあい通学合宿のねらいや目標などを確認した。そして、自己紹介とアイスブレイキングを室戸ボランティアリーダーが行い、他校の子供たちとの交流を深めた。初めて参加した子供た

ちにとっては楽しい活動になり緊張していた表情が和らぐ姿が見られた。その後の夕食でも、班ごとで席に座り、楽しく会話をしながら食べていた。夕食後は、第3研修室に戻り、ふれあい通学合宿の個人目標を模造紙に書き、友達と共有を行った。子供たちの目標には、規則正しい生活を送るための目標がたくさん書かれていた。宿泊棟に移動し、洗濯体験もしてもらう計画をしているので洗濯機の使い方を説明した。入浴後の班会では、健康観察や1日の振り返りを行った。明日からの登校に備えて子供たちは午後9時30分には布団に入り眠った。



<2月25日(火)>

朝6時に起床し布団の整頓をした後、午前6時40分から朝食をとった。子供たちの早い時間帯での朝食を心配していたが、しっかりとご飯を食べている姿が見られた。子供たちの朝食の様子を見ていたが、野菜を食べる子供たちが少なくバランスの良い食事をとることに課題が見られた。朝食後、午前7時15分に自然の家のバスで登校した。子供たちは、自然の家から学校へ登校することになったが、ボランティアリーダーのサポートで無事に登校することができた。登下校の際、ボランティアリーダーと一緒に登校したり、学校へ迎えに行ったりして交通安全面に配慮した。子供たちはボランティアリーダーと一緒に登校することで喜びや安心を感じていたようである。



<2月26日(水)>

学校から下校後、タベのつどいに参加した。子供たちは、国旗や所旗の降納や代表挨拶の仕事を頑張ってやっていた。その後、夕食をとって学習に取り組んだ。学習の目標は、主に学校から出されている宿題を自分の力で集中してやること、学習習慣を身に付けることである。そのために、毎日1時間の学習時間を設けた。前日、時間内に宿題が終わらない子どももいたので、ボランティアリーダーに子供たちの声掛けや学習の進め方を話して支援を指示した。子供たちは、話し声もなく集中して学習を行っていた。全員が時間以内に宿題を終わらすことができた。まわりの友達がまだ

宿題をしているので自分もがんばらなければという気持ちで取り組んでいるように見られた。ただ、学習をしている子供たちを見ていて、鉛筆の持ち方や正しい学習姿勢などが気になった。



<2月27日(木)>

今回参加した子供たちは、時間を守ることへの意識が強いようである。ボランティアリーダーの声掛けもあったが、「5分前行動」がしっかりできていることに感心した。朝食時間も6時40分から食べることを話しておくことと必ず集合することができていた。子供たち同士のかかわりについても、他校の友達と楽しく会話したり、助け合ったりしている姿が見られた。ふれあい通学合宿期間中、途中で具合が悪くなり家庭に帰っていた子供も、元気になったのでふれあい通学合宿にもう一度参加したと保護者から連絡があり、再度参加した子供もいた。友達と一緒に生活することに喜びを感じていたようである。日を追うことに友達との友情が深まり、絆が強くなっていく子供たちの姿が見られていた。



<2月28日(金)>

ふれあい通学最終日、朝食を食べた後、自然のバスで各学校へ登校した。子供たちのほとんどが、新しい友達ができたと自分のできるが増えたことなどに喜びを表していた。子供たち一人ひとり成長した姿が見られた。バスに乗って帰る時、新しい友達やボランティアリーダーとの別れを惜しむ姿が見られた。5年生の子供たちの中には、来年もふれあい通学合宿に参加したいと言っていた。来年のふれあい通学合宿もすごく楽しみである。



3. 事業の成果と課題

○ 参加者の感想

- ・みんなと仲良く出来て楽しかった。インドネシアの人たちといっぱい話ができうれしかった。
- ・自分から初めての人に話しかけられるようになった。
- ・規則正しい生活ができたしバランスよく食事がとれた。
- ・職員さんのアドバイスもとても分かりやすかったし、これからも教えてもらったことは続けていきたいです。
- ・早寝、早起きができるようになった。これからも続けていきたいです。
- ・時間を守ることや自立することの大切さが分かりました。
- ・自分は恥ずかしがり屋なのでたくさんの人と交流ができて良かったです。気持ちがとても楽になりました。
- ・友達としっかり交流する時間があったので良かったと思います。宿題の時間はたっぴりととれていたのが良かったと思います。
- ・いつも人に頼っていたので、これからは自分のことは自分でして、困っている人の助けができるように余裕を持ちたいと思った。
- ・4日間だったけど、みんなといろいろなことをして楽しかったし、本当の自分が知れたっていうか、いろんな人と友達になれてよかった。他の国から来ている人たちもいて、あいさつもできて良かったし面白かったです。

○ 事業の成果

- ・初日に、子供たちにふれあい通学合宿を通して、規則正しい生活の大切さや自立について話して取り組んだ。子供たちは各自が生活目標を持って5日間生活することができた。最終日のアンケートにも自分の成長に気づくことができた子供もいた。
- ・参加した子供たちのほとんどが少人数学級である。活動の中で、コミュニケーション力を高める活動を取り入れた。他者とかがかわることが苦手な子供も5日間過ごすことでよりよい関係を築くことができるようになった。
- ・子供たちの意欲を高める声掛けの仕方には、どういうものがあるかを職員とボランティアリーダーで共有して取り組んだ。そのことで、子供たちの活動に対しての意欲が高まり、友達に対しての優しさなどがたくさん見られるようになった。

○ 事業の課題

- ・来年度、1週間行うのであれば、子供の身体面を考えて土曜日終わりの日程で考えていく必要がある。
- ・各関係機関と連絡を取り合いながら子供たちの為にどんなことができるか考えながら事業を進めていかなければならない。